

Ⅱ「乳児・小児に行う心肺蘇生法(CPR)」

★小児・乳児の区分について

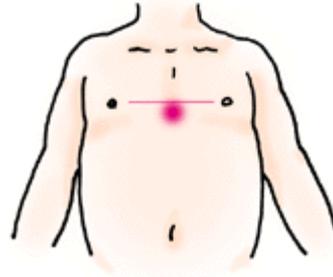
- 小児などに対する心肺蘇生法のやり方は、年齢に応じて異なります。ここでは、概ね「1歳以上8歳未満」を「小児」として、「1歳未満」を「乳児」として取り扱います。子どもでも、「8歳以上」の場合は、成人と同じやり方で心肺蘇生法を実施します。

★人工呼吸(呼吸がなければ、まず2回息を吹き込む。)

- 小児に対する口対口人工呼吸
約1秒かけて、胸の上がりが見える程度の量を吹き込む。
- 乳児に対する口対口鼻人工呼吸
乳児の口と鼻を同時に自分の口でおおい、約1秒かけて、胸の上がりが見える程度の量を吹き込む。



(乳児の人工呼吸)



(乳児の胸骨圧迫位置)

★胸骨圧迫(呼吸がなければ、人工呼吸後に約100回/分のリズムで30回圧迫する。)

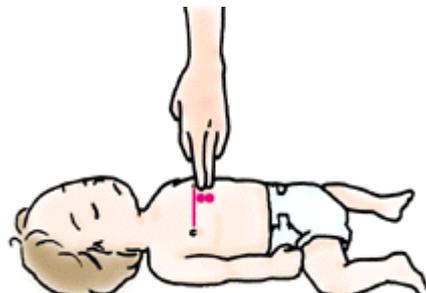
- 小児に対する胸骨圧迫
片方の手の付け根で、左右の乳頭を結ぶ線の真ん中の胸骨を、胸の厚みの1/3までしっかり圧迫する。
- 乳児に対する胸骨圧迫
片手の2本の指で、左右の乳頭を結ぶ線の胸の真ん中より少し足側の胸骨を、胸の厚みの1/3までしっかり圧迫する。

★心肺蘇生の中止

- 心肺蘇生を実施中に傷病者が動き出す、息をしばじめた場合は、心肺蘇生を中止します。



(小児の胸骨圧迫)



(乳児の胸骨圧迫)

主に市民が行う一次救命処置(BLS)

